

発行 日本音楽療法学会

理事長 日野原重明 副理事長 松井 紀和

事務局 〒105-0013 東京都港区浜松町1-20-8 浜松町一丁目ビル6階 TEL 03(5777)6220 FAX 03(5401)0337



第4回 日本音楽療法学会学術大会を 無事終えて

大会長

岸本 寿男

すすきの穂が風に揺れる秋真っ只中の今日この頃、記録的な猛暑の夏の記憶も遠くなりつつありますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

ご存知の様に第4回日本音楽療法学会学術大会は、平成16年9月3日～5日の3日間、『音楽療法の「音・音楽」の意味・役割を考える』をテーマに倉敷市の川崎医療福祉大学キャンパス内で開催され、お蔭様で無事終了致しました。本大会の開催が決定して約一年、実行委員会を中心に数多くの打ち合わせを重ね、準備を進めてきました。幾つかの反省点も残しましたが、ともかく大過なく終了できましたことにほっと胸をなでおろしています。参加者数は、予想を越えて約2500名を数えました。全国から遠路ご参加いただきました方々に心より御礼申し上げます。台風や、地震も幸いなことに影響は無く、まさに天と時と人に恵まれた大会でした。印象に残ったことを含めて簡単に大会を振り返ってみたいと思います。

9月3日の講習会につきましては、ほとんどの講義が事前予約で早々に満席となったことから想像できるように、どの会場も受講者の熱気がすごく感じられました。内容の濃い講習を準備いただいた講師の方々に心より感謝申し上げます。

4日の本大会初日は、コリン・リー氏の海外招請講演Ⅰ「美的音楽療法の可能性」で始まり、音楽療法が目指すひとつの新たな視点として、大変示唆に富む内容でした。続いての湯川れい子氏の特別講演「音楽って何だ?」は、市民公開講座ともなり、分りやすく共感できる内容で音楽も多く使われ心癒される時間でした。午後の大会長講演では私の音・音楽に寄る想いを、音を使った伝え方で試みましたが、クライブ・ロビンス氏のサプライズにも助けられ、なんとか任を果たすことができました。その後はプロジェクト報告や一般演題の発表で活発な討議が行われました。夕方からのチボリ公園での交流会にも600名を越えるご参加を頂き、また場所を変えての音楽交流会でも、歌って踊って楽しいひとときを過ごしていただくことができました。

最終日5日の朝は、ブリュンユルフ・スティーゲ氏の海外招請講演Ⅱ「コミュニティ音楽療法と文化の変化」があり、音楽療法が地域や文化に対しても大きく影響を及ぼし得るといふ画期的な視点からの内容で、今後我が国においても参考になる点が多く大きなインパクトを感じました。午後のシンポジウムは若尾 裕氏の司会のもと、折山もと子、岡崎香奈、山下晃弘の3氏によるプレゼンテーションがなされましたが、いずれも今回の大会のテーマが深められた素晴らしい内容でした。その後は前日同様、プロジェクト報告や一般演題が発表されました。今回の一般演題については、厳密な査読により、かなりレベルの高い引き締まったものになったと感じました。ただ抄録と実際の発表内容とは必ずしも一致しないこともあり、査読方法の限界や難しさも感じたのも事実です。今後の課題だと考えます。大会を締めくくったのはコリン・リー氏の即興演奏コンサートで、素晴らしい音楽に包まれてエンディングを迎えることができました。

最後に、本大会の成功を支えてくださった実行委員、事務局スタッフはじめ、学生ボランティアの方々の献身的なご協力に敬意と感謝の気持ちを表します。ありがとうございました。



第5回日本音楽療法学会学術大会開催に向けて—第一次案内—

柏木 哲夫 大会長

〈はじめに、日時〉

この度第5回日本音楽療法学会学術大会の開催をお世話させていただくことになりました金城学院大学の柏木です。今回大会長としてのご挨拶と大会のご案内をさせていただきます。これまでに何回か実行委員会を開きましたが、回を重ねるごとに、責任の重さを実感しております。

日時は2005年9月9日（金）に講習会を、9月10日（土）と9月11日（日）に学術大会を、いずれも名古屋市守山区の金城学院大学キャンパスにて開催いたします。

〈大会長就任の事情〉

私事で恐縮ですが、10年間奉職した大阪大学人間科学部を2003年3月に定年退職し、ご縁があって2003年4月より金城学院大学の人間科学部にお世話になり、臨床ケア学やホスピス論を教えていました。2004年4月より同大学の学長に就任いたしました。私の音楽療法への関わりといえば、ホスピスにおける末期患者さんへの音楽療法の実践と大阪大学時代の音楽療法の基礎的研究に限られています。

日本音楽療法学会には日野原先生のお勧めで入会し、その後、近畿支部の役員には名を連ねさせていただいてはりましたが、あまり積極的な関わりはできませんでした。そんな私が、名古屋に移ってからまだ日も浅いのに、この大きな学会の会長をお引き受けするのはあまりにも不自然と、ご依頼を受けた時、躊躇いたしました。しかし、東海支部長の都築裕治先生のご熱心なお勧めと、東海支部に金城学院大学以外にスペース的に適切な場所が少ない事などをおうかがいし、お引き受けする決断をいたしました。

〈大会の運営〉

都築先生が実行委員長として、学会を引っ張っていただくことと、金城学院大学の人間科学部で実際に音楽療法の講義をしておられる渡辺恭子先生に準備委員長になっていただくことが、大会長をお引き受けする条件でした。金城学院大学では既存の施設に加えて、2005年4月のスタートをめざして薬学部建物と一般共通校舎の建設が進んでおり、3000人程度の参加者に対応できるものと思っています。大会実行委員、東海支部の役員、支部会員の総力を結集し、全国の会員の皆様のご協力をいただきながら、全力で準備を進めていく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

〈メインテーマ：「いのち・こころ・いやし」と音楽療法〉

第5回大会のメインテーマを『「いのち・こころ・いやし」と音楽療法』とさせていただきます。このテーマは大会長をお引き受けする時、すでに私の中にあり、実行委員会の中でもお認めいただきました。実は「いのち・こころ・いやし」の三つは金城学院大学の教育目標のキーワードなのです。そして、私の音楽療法との関わりの中から、この三つのキーワードは音楽療法がめざすものと深く関係していると感じています。そこで、プログラム全体をこの三つのキーワードを意識しながら組む事に致しました。

まず、特別講演の講師にノンフィクション作家の柳田邦男先生におこしいただくことにしました。ご存じのように柳田

先生は「いのち・こころ・いやし」に関わる多くの著書を出版されており、加えて音楽に深い造詣を持っておられるので、メインテーマにふさわしいお話をうかがえるのではないかと期待しています。

大会長講演として、メインテーマと同じ『「いのち・こころ・いやし」と音楽療法』という題で、私のこれまでの精神科医、ホスピス医としての経験から学んだ事を話させていただきます。

シンポジウムは栗林文雄先生に企画をお願いし、「音楽とスピリチュアリティ」を計画しています。一般研究発表にも多くの会員の参加を期待しています。

講習会は門間陽子先生に責任者になっていただき、今回は初めての試みとしてレポート作成、添削というプログラムを組む予定です。

その他、ピアノ演奏や、ハンドベルの演奏も予定しています。懇親会は二会場に別れますが「名古屋名物メニュー」と「ヘルシーメニュー」を考えています。

〈お誘い〉

名古屋は今元気です。愛知万博、新空港の建設、トヨタの頑張りなどの相乗作用で全体に活気があります。2005年は輪をかけてもっと元気になることでしょう。愛知万博の開催期間は2005年3月25日～2005年9月25日です。幸い大会はその期間中に開かれます。大会の前後に（大会中ではなく）愛知万博へも参加するという可能性も視野に入れて、多数の方々のご参加を期待しています。

【第5回日本音楽療法学会学術大会実行委員会】

執行部

大会長 柏木 哲夫
実行委員長 都築 裕治
準備委員長 渡辺 恭子
副準備委員長 小川 尚子
学術担当（研究／シンポジウム）委員長 栗林 文雄
研修プログラム委員長 門間 陽子
—他—

【開催日時】

2005年9月9日（金）：講習会
10日（土）：学術大会第1日目
（研究発表・シンポジウム・特別講演）
懇親会
11日（日）：学術大会第2日目
（研究発表・大会長講演）
総会

【開催地】

名古屋市守山区大森 金城学院大学にて

【事務局】

名古屋市守山区大森2-1723金城学院大学内
日本音楽療法学会第五回学術大会事務局
E-mail jmta2005@kinjo-u.qc.jp

北海道支部

支部長 久村 正也

全国の会員の皆様、こんにちは。

紙面をお借りして、北海道支部のご紹介を致します。

当支部は初代支部長を勤められた栗林文雄氏の献身的なご尽力のもと、2002年6月に設立総会がもたれ、同年9月に理事会の承認を得て7番目の支部として誕生致しました。

音楽療法が北海道に住む人びとにエネルギーを与え、病む心や体を癒すユニークな展開をするように期待したい、という日野原理事長の励ましのお言葉に報いるよう、現在まで会員一同切磋琢磨して参りました。

支部活動の一つに他支部と同様、定期的な講習会の開催（原則として年2回）がありますが、この講習会にひと工夫をこらし、音楽療法関係の課題・話題のみならず、心理療法という技法全般を把握するために必ず他の心理療法の講義を取り入れることにし、既に、概略自律訓練法、交流分析、認知行動療法などを学びました。次回はコラージュ療法を予定しております。

さらに、音楽療法士にややもすると欠けている医学知識（例えば、音声医学など）を習得する目的で、次回からは毎回、医学ミニレクチャーを設ける予定です。

また、定期的なニューズレターの発行も順調で（この学会ニュースが出る頃には第6号が発行されている筈）、近々、当支部ホームページの開設なども予定しております。

なお、当支部会員の率直な声を広くお聞きするために、支部事務局に“会員提案箱”を設置して会員との交流を図っています。

将来的には支部会誌の発行、音楽療法に関する市民講座の開講などを計画しておりますが、これらはもう少し当支部の体力が充実してからの取り組みになるでしょう。

当支部は、現在のところ会員数約200名の小規模集団であります。全会員参加型の支部を指向して努力中であります。

全国の会員皆様の暖かいご支援とご指導を心からお願い申し上げます。



東北支部

支部長 遠藤 安彦

東京・大阪の真夏日新記録にめげずに暑かった東北の短い夏、先日“創作”和太鼓コンテストの審査員で訪れた宮城・秋田・岩手県境の栗駒山の頂上付近は、丁度秋の紅葉の見頃でした。今、紅葉は東北を一気に南下しようとしている所です。

東北支部もなんかしようと、この週末に秋田市で開催される支部大会の、研究発表者を決める「査読委員会」の“研修会”を初夏に持ちました。論文を評価される側だったのに、『あっ、そうだったんだ……』『これが足りないんだ!』、そして『自分はどうだったんだろう?!』等々、いろいろ勉強になったようですヨ!

支部でこのような研修会を持つようになったのは、それだけ認定療法士の合格者が増えてきたことが大きな理由になるのでしょうか、それとも社会のニーズに応える必要性から“更なる上”を目指すようになったからなのでしょうか?!

いずれにせよ、広い《東北支部》、悪く言えば相互通行の便の悪い《東北支部》として、直接の情報交換の“場”が新設されたことの意味するものは大きいといえる。

国内均一思考という狭く限られた土壌を大切に守ることの好きな“われら”日本人にとって、広い間口や自由、情報交換などと言ったものは、今も相変わらず苦手意識を露わにし、落ち着かないようだ。

それがナント、この音楽療法の、いや音楽療法士やそれを目指す人たちには、何が苦手!?とといったフシを見つけるのが難しいくらい、自由闊達でオープンな交流や表現がみられて、通称へソ曲がりの作曲専攻者から見ると、〈実にいい人たちの集まり〉だと強く感じている。

10月2日・3日は秋田で支部大会・総会です。06年度の全国学術大会の東北支部開催をめぐって、自由な論争を期待するところでした。最後になりましたが、東北各県の認定療法士を中心に、研修・広報活動が活発に行われております。ホームページをご覧ください。



関東支部

事務局長 宍戸幽香里

台風や地震などの被害に会われた方々のことが気になる毎日ですが、人事ではないと思われた方も多いかと思います。被害にあわれた方々には、お見舞い申し上げます。

関東支部は地方会と選挙を控え、何かとあわただしい時期です。第3回の講習、地方会が12月4日、5日の埼玉市浦和区で開催されます。

講習、地方会の申し込みは10月31日まででしたが、今から申し込む方は大会事務局に確認の連絡の上、申し込んでください。すでに満席の講習もあるとのこと。

今年は初めての関東支部幹事の選挙が真近です。投票締め切りは11月30日必着です。関東支部会員の手による今後の発展のために、是非投票をしてください。投票手続きは配布物をよく読んで上で、投票をして下さい。



信越・北陸支部

支部長 北本 福美

信越・北陸支部では、本年6月12日(土)～13日(日)に、第1回講習会 第2回の支部総会・学術集会在「音楽療法が実現する“セラピー”とは？」をテーマに、金沢で開催された。講習会では、1題目は「音と動きに一工夫……心と体を動かそう」と銘打ち、講師の都築裕治先生が「スタート時の初心に戻って！」と、大切にしてきたご自身の治療姿勢をご紹介くださった。2題目は「セラピストの肉体改造」と言う題で、北本がセラピストの感性教育の必要性を事例提示しながら紹介させていただいた。3題目は、永田丕先生と青拓美先生が対談形式で登場して下さり、「私の伝えたい音楽療法」と題した永田先生のライフワークとしての音楽療法の実際が青先生の巧みな話術で引き出された。音楽療法の師としてのみならず、人生の師としても学ぶべきところの多くを拝聴させて頂けた思いであった。2日目の午前中は、公開講演会「人と音楽～ほほえみのわけ」(講師：山中康裕)が開催され、この機会にと五木村に「五木の子守唄」本調子？を聴き取りにいかれた山中先生の喉のご披露や先生の還暦を記念して作られた「ほほえみのわけ」(作詞；谷川俊太郎 作曲；山中康裕 編曲；青拓美)の初演も交えて、芸術・表現の中での「ひと」の味わいが語られた。午後の学術集会では、口頭発表8題、ポスター発表5題が報告され、熱心な討論が交わされた。

来年度の支部集会是、宮下弘子会長の下(実行委員長 西巻靖和)、長野市で〈チーム医療との関連で進めていく音楽療法〉をテーマに6月11～12日の両日で開催予定である。



東海支部

支部長 都築 裕治

●東海支部では、2004年3月に名古屋芸術大学にて“2003年度総会・研修会”を開催し、この2004年10月10日には名古屋音楽大学にて“2004年度総会・研修会”を、また2005年4月には“2005年度総会・研修会”を予定しています。半年ごとに総会・研修会が行われることとなりますが、開催年度はそれぞれ、2003年度、2004年度、2005年度と推移しています。諸事情から、今までは各年度での総会開催が少し遅れ気味になっていましたが、各年度ごとの活動方針や予算案を、年度始めに支部総会にて支部会員からご承認いただくという望ましい形にする為に開催月を調整し、このような日程となりました。また、東海支部では日本音楽療法学会第5回大会開催をお受けしており、それが2005年9月ですので、3月、10月、4月、9月と大会ラッシュといった感じです。

●2004年10月10日の“2004年度東海支部研修会”では、一発表につき30分(20分の発表・10分の質疑応答)という、比較的ゆったりとした時間を設定しています。発表のしっぱなし、聞きっぱなしということではなく、発表者とフロア及びフロア相互での“やりとり”の持てる時間をつくり、互いに深め合う契機になるようにということを役員間で話し合い、このような形になりました。

●支部が立ち上がり、何年か活動していると、当初には見えなかったところ、よく分からなかった所も見えてきます。東海支部では支部役員選挙を昨年末に行い、この4月より選挙により選出された支部役員により運営がされていますが、役員任期は2年なので、2005年度中にまた支部役員選挙を迎えることとなります。先回の支部役員選挙を振り返り、より合理的に支部会員の意識が反映されたものとなるように、東海支部役員選挙規定の点検もしているところです。支部規約についてもここを少し

手直した方がいいのではないかと、この条項を加えた方がいいのではないかと出てきます。支部会員にとってより身近な支部となるように、多方面からの検討を進めて行きたいと思います。



近畿支部

事務局長 大前 哲彦

第4回近畿学術大会は、2004年9月19日～20日に奈良教育大学で370人の参加をえて開催された。第5回は相愛大学を会場に2006年3月に開催予定である。大会・講習会収入をあてにして近畿支部事務所を確保する構想であったが、断念せざるをえないことになった。会員ボランティアで大会の準備や裏方をまかなう方法では一部会員の過負担になるためにアルバイト雇用に切り替えることにしたためである。よって支部事務所は、561-8555豊中市庄内幸町1-1-8、大阪音楽大学内に移転する。FAX番号は06-6333-0286で変更されないが、支部のメールアドレス、電話番号は変更されるかもしれない。



中国支部

事務局長 武田千代美

夏の暑さの残る、去る9月3日から5日の3日間、岡山県倉敷市、川崎医療福祉大学において開催されました第4回日本音楽療法学会学術大会は、全国からの会員・一般参加者にお集まりいただき、盛会のうちに終了しました。中国支部役員・スタッフ一同、関係各位のご協力に深く感謝いたしております。ありがとうございました。この学術大会後、1ヶ月を経た現在、事務局としては、事務処理、レポートの採点作業などを中心に、反省会なども行って、今後の学術大会に引き継ぐべく作業を進めております。

また、来年2月19日20日には、山口県において、支部主催の学術大会を開催する予定で、現在山口県の会員を中心に準備を進めております。この大会テーマは先の全国大会のテーマを引き継いで、「音・音楽の力とは」～臨床における問題を考える～とし、実践的な内容を企画しております。基調講演には、生野里花先生をお招きし、「音楽療法の音楽—今、もういちど音楽家として、人間として—」と題してお話いただきます。そのほか、研究発表、シンポジウム、講習会も企画されています。皆様のご参加をお待ちいたしております。



四国支部

支部長 山本 恵子

今年は台風の当たり年！ その真っ只中、2004年8月1日、悪天候をものともせず、四国支部は産声を上げ、同年9月3日、第4回学術大会（倉敷）にて開催されました理事会で、正式に承認されました。先輩の皆様方の温かい見守りとご援助に感謝です

支部長 山本 恵子 副支部長 三崎めぐみ 事務局長 吉岡 明代
理事 藤井 澄子 会計 板東 浩 監事 二神 純子 市原 文昭
総勢7名の役員で船出です。

四国支部の会員の皆様方できり、運営いたします、四国支部を目指し、役員一同、民主的で、透明度の高い、開かれた、支部運営を心がけたいと思っております。

第4回学術大会での素晴らしい講演の数々、それぞれに深い感動を覚え、そして、音楽療法、音楽療法に携わるということに、厳粛な謙虚な気持ちを持って、向かい合わなければならないと感じました。

会員の皆様方とともにある・その思い・心を大切に、遅ればせながらではありますが、一つ一つ、無理をせず、自然体でやっていくことができたらと思っています。どうぞこれからも、四国支部をよろしく願いいたします。

お知らせ

第1回四国支部設立研修会 (仮称)
日時 2005年2月11日(金) (決定)
場所 香川県 (決定 詳細はこれから)
講演 症例・研究発表 ポスター発表 (決定 詳細はこれから)

設立より何回か役員会を経て決定いたしました。

初めてのことで、皆様へ助けをいただきながら、一心をひとつにして実りある研修会としたいと思っています。四国支部の会員の皆様、たくさんたくさんご参加ください。他の支部の皆様方、この機会にぜひご参加いただき、四国支部に花を添えていただけるとうれしく思います。お待ち申し上げます。



九州・沖縄支部

支部長 齊藤 雅

九州・沖縄支部におきましては、支部内各県から役員を選出し、学会内のあらゆる問題を公開しつつ、民主的な運営を心がけております。今回の国家資格化問題についても、他の支部にさきがけ、支部会員の意見をアンケートにより集約し、また、評議員会、理事会の報告も逐一行うことで、透明性を図っております。今後も、なるべく会員各位の意見を尊重し、よりよい音楽療法士の社会的認知を高めるべく、努力しているところです。



■ 2004年度日本音楽療法学会 研修・講習会のご案内 ■

教育・研修委員会

2004年度学会主催の研修講習会の概要が決まりましたのでお知らせいたします。各自振ってご参加ください。なお、受講申し込みについての総合案内は2005年1月初に会員の皆様にお送りする予定です。

研修・講習会

- 目的：会員の研修、認定資格の取得・更新
- 日時：2005年2月26日（土）、27日（日）
- 会場：日本教育会館一ツ橋ホール（地下鉄神保町駅徒歩3～5分、竹橋駅徒歩5分）
- 実施方法：大会場での講演方式
レポート提出

●概要（仮題）：	内 容	講師（敬称略）
一日目	講演 I 「音楽療法におけるリズム」	有賀誠門
	〃 II 「 同 上 」	同上
	講座 「コミュニケーション論」	長岡恵理
二日目	講演 「ケースレポートの書き方」	山本淳一
	シンポジウム I 「査読者の視点」	二俣 泉、星山麻木、羽石英里（予定）
	〃 II 「 同 上 」	同上

学会事務局からのお知らせ

■ 第11回世界音楽療法会議について (11th World Congress of Music Therapy)

世界音楽療法連盟が3年毎に行う世界音楽療法会議が2005年7月19～23日、オーストラリア・ブリスベンにおいて開催されます。今回は「From Lullaby to Lament (子守唄から哀歌まで)」というテーマで、音楽療法がすべての人類の人生全般に関わる重要性に焦点をあてながら、世界各国からの参加者による議論が交わされる予定です。

申込はウェブサイト www.musictherapy2005.com より。

連絡先は、電話 +61-(0)7-3854-1611、ファックス +61-(0)7-3854-1507 または

Email musictherapy2005@ozaccomm.com.au

■ 日本音楽療法学会ホームページがリニューアルされました。

各支部のページやイベントページが増強されました。今後充実した情報提供などが期待されます。また入会の申込がホームページから可能になりました。

■ 2004年度資格審査を申請された方へ

2004年10月15日までに提出された申請書につきまして現在審査中です。結果につきまして11月末日までに通知されます。書類審査合格者は面接試験(12月18日(土)13時～16時、または19日(日)9時～16時のいずれか1日、約10分間)が東京にて実施されます。該当の方はご準備ください。

最終審査結果は2005年2月初旬に通知されます。

■ 2004年度資格更新審査および猶予を申請された方へ

2004年11月1日までに提出された更新及び猶予申請の審査結果は2005年2月初旬に通知されます。

■ 「資格認定規則(申請書)」および「資格更新規則(申請書)」の取り寄せについて

240円切手を貼った返信用封筒(A4サイズ、必ず宛先を書いてください)と500円分の定額為替を同封して、学会事務局へお申し込みください。

* 「音楽療法士認定規則」の配布は会員のみが対象ですので非会員の方は入会手続き(会員番号登録)完了後の取り寄せとなります。

* 資格更新の対象の方には当該年度の5月上旬、全員に送付していますので取り寄せは不要ですが、早く入用の方は上記認定規則と同じ方法でお取り寄せ下さい。

なお、各規則の内容に関するご質問は、事務局では判断しかねますのでご遠慮ください。

■ 「カリキュラムガイドライン01」の取り寄せについて

120円切手を貼った返信用封筒(B5サイズ、必ず宛先を書いてください)を同封して、学会事務局へお申し込みください。

■ 会費(年会費)納入のお願い

年会費は年度内にお納めいただきますようお願いいたします。昨2003年度分未納の方は早目にお納めください。

正会員 10,000円 学生会員 6,000円

購読会員 6,000円 賛助会員 50,000円/1口

振込先 郵便振替口座 ○ 加入者名: 日本音楽療法学会

○ 口座番号: 00120-9-657711